

第85回 アメリカの征服

1 征服者たちとスペイン

・「新大陸発見」以降、特にカルロス1世の時代には、多くのスペイン人が黄金や領土の獲得とキリスト教（カトリック）の布教を目的として、アメリカに渡った。
 ※彼らのことを「征服者」、スペイン語で（ ）と呼ぶ。

- ・1521年、（ ）は、（ ）を滅ぼしてメキシコを征服した。
- ・1533年、（ ）は、（ ）を滅ぼしてペルーを征服した。
 →現在ペルーの首都となっている（ ）を建設した。

- ・アメリカにわたった征服者たちは、キリスト教の布教を条件に、先住民を強制労働させる権利をスペイン国王から受けた。
 ※この制度を（ ）という。
 →先住民は、ボリビアの（ ）に代表される銀山や、プランテーションで働かされた。
 →過酷な労働とヨーロッパ人が持ち込んだ伝染病により、先住民の人口が激減した。

- ・またスペインは、銀船隊によって採掘した銀を大量にヨーロッパへ運び込んだ。



コルテス

スペインの下級貴族出身で、「新大陸」に来る前は法律家を目指していたらしい。子孫がメキシコにいる。



ピサロ

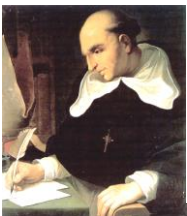
もともとは、バルボアの部下で、パナマ探検にも参加した。わずか180人でインカ帝国を征服したが、内紛によって暗殺された。



ポトシ銀山

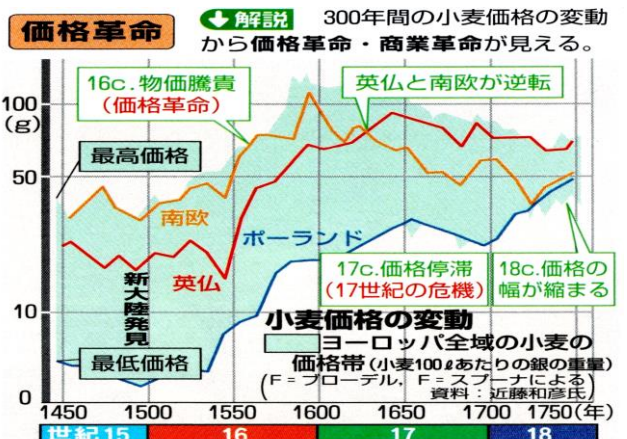
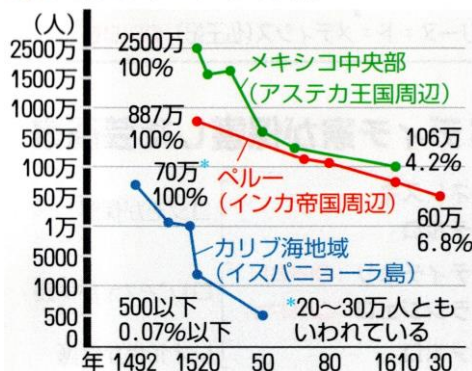
日本の石見銀山と並び、16世紀の世界経済を大きく左右した銀山である。4万5000トン以上の銀を産出したとされる。

- ・スペイン人修道士（ ）は、『インディアスの破壊についての簡潔な報告』をスペイン王カルロス1世に提出し、この植民地政策を厳しく批判した。
 →アメリカでは、強制労働への批判や人口の激減などで、労働力不足となった。
 →そこで（ ）という奴隷供給契約を結び、アフリカから（ ）が輸入されるようになった。
- ・スペイン人が私有の大農園で奴隷を働かせる（ ）が広まった。



ラス・カサス
 キリスト教の立場から、先住民の保護に生涯を捧げた人物である。しかし黒人奴隷の輸入には反対しなかった。

●先住民の人口減少



- ・スペイン人のレガスピは（ ）を征服し、1571年、（ ）を建設した。
- カルロス1世の息子（ ）は、メキシコの（ ）からフィリピンのマニラへ銀を運びこみ、中国の産品と交換した。
- ※これを（ ）、もしくはガレオン貿易という。
- ・スペイン領ネーデルラントの（ ）は、貿易の中心地として栄えた。



フェリペ2世

スペインの絶対王政を象徴する国王。第91回で詳しくやります。フィリピンの名は、皇太子時代の彼にちなんでつけられた。



ガレオン船

カラック船から発展し、スピードや積載量にすぐれた大型船である。軍艦や商船として、盛んに使用された。日本では、伊達政宗が建造している。

2 大航海時代がヨーロッパに与えた影響

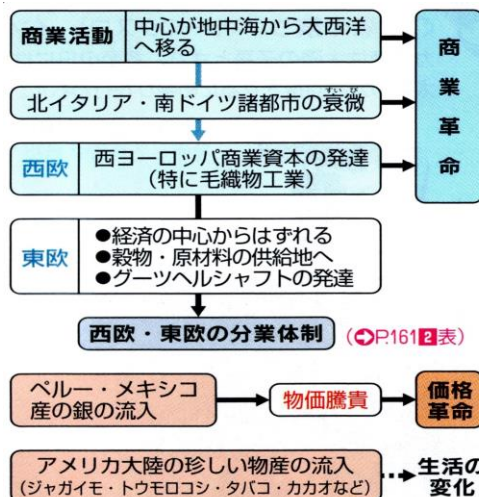
・「新大陸」からは、それまでヨーロッパには無かった野菜・嗜好品、そして大量の（ ）が持ち込まれるようになった。



- ・大量の銀の流入に人口増加も加わり、ヨーロッパでは物価が急激に上昇した。
- ※これを（ ）という。
- ・ヨーロッパ人は、インド航路の開拓により直接アジアへ行き、そこでアメリカの銀を使って香辛料などを買うようになった。
- ヨーロッパ、アジア、アメリカが密接に関係して（ ）が進み、資本主義経済の発達をうながした。
- かつて地中海における東方貿易で栄えた（ ）し、大西洋沿岸のポルトガル、スペイン、後にオランダが栄えるようになった。
- ※これを（ ）という。
- ・西ヨーロッパで商工業が活発になり人口が増加すると、エルベ川以東の東ヨーロッパでは西ヨーロッパに穀物を輸出するための（ ）が広まった。
- 東ヨーロッパでは農奴に対する支配が強化された（再版農奴制）。
- ・このような世界的な分業体制を、「 」という。



ウォーラーStein「近代世界システム」論をとなえた歴史家。強力な「中核」とそれより劣る「周辺」の関係から、世界の大きな動きを捉えた。2019年死去。



商業革命（貿易関係の変化）

